



清 泉

令和6年12月24日

昭島市立清泉中学校

校長 佐藤 晴美

昭島市立清泉中学校 〒196-0024 昭島市宮沢町1-9-1

電話042-541-0762 FAX042-541-6869 <http://www.city.akishima.ed.jp/~seisen/>

❁ 冬は一番あったかい季節 ❁

このごろ、学校の廊下を歩きながら出る言葉は「寒い」ばかり。「寒い」と言っても温かくなるわけがないことぐらい知っているのですが、ついつい、休み時間の廊下で「あー寒い！」と心の声を発したら、生徒から「3年間、ここで生活していればそんなに寒く感じなくなるよ。いつもより今日は暖かいですよ。」(プラス笑顔)。生徒たちから教えられることはたくさんあります。何事も不平や不満を先に出すよりも、「よさ」を見つけていける心を大切にしていきたいものです。

さて、私は11月下旬から3年生の受検(験)に向けて、面接練習を行っています。今年の3年生は、マニュアルどおりという答えはなく、自分の言葉で自分の考えを伝えてきます。もちろん、その場でじっくりと考えているため少し時間がかかることがありますが、真剣さと誠実さが感じ取れるのです。

ある生徒にこんな質問をしました。「最近のニュースで気になっていることはありますか」。その生徒は少し考えたのち、次のように話を始めました。

「私は103万円問題が気になっています。自分には兄・姉がいます。この問題は自分の家庭にとっても関係しています。限度額が上がることは家族にとって好ましいことではありますが、しかし、国として考えると税金に関わります。十分な議論が必要だと考えています。」

冬は「寒い」、でも「あったかい」。冬休みは他の長期休みとは違い、年末年始の時期のため、家族と過ごす時間が多くあります。もちろん以前の日本とは生活様式が変化し、それぞれのご家庭の様子も変わってきましたが、それでも新年を迎えるにあたり、残っている慣例もあることでしょう。家族総出での大掃除や、年越しそばや新年を祝う食事をするなど、家族がそろう場面が多いのではないのでしょうか。

そのとき、どのような会話が生まれるのでしょうか。そのときの会話の『体(心)感温度』がその後のそれぞれの思考に影響を与えるのではないのでしょうか。その温度が大人にとっても子供にとっても大切な「エネルギー」となると私は思っているのです。

前述の3年生の面接で生徒が話した内容は、学校で学んだことは数十パーセントにすぎず、ほとんどは家庭での会話で育まれたことではないかと私は感じています。

冬休み、お子様(お孫様)の話を楽しみながら聞いてください。どんどんアウトプットをさせてあげてください。そして、大人もたくさんの「あったかい」話をして、家族みんなで笑い、「あたたかいな」と感じる時間を楽しんでください。私もそうしたいと思います。



😊 清泉中生、頑張ってます！ 楽しんでます！ 🎉

全校レク

体育委員会が企画・運営した「全校レク」を実施。様子を見ていた私も校庭を走ることに。楽しかった。うれしかった。

生徒たちに感謝！

時は12月13日(金)の昼休みの15分間。校庭での鬼ごっこ。来る者拒まず、だれでも、どのタイミングからでも参加できる。それ以外の難しいルールはない。いって言えば「5時間目の授業に遅れない」、「みんなで楽しむ」ことぐらい。ふと校舎を見上げると教室の窓に応援する生徒たちの姿が。それも清泉中らしい。



冬の曇り空でしたが、あったかいひとときとなりました。



献立コンクール

12月11日(水)の昼休み。職員室に戻って来た教員が「おなかいっぱい！」との第一声。1年生の教室では「うまい！」「チンジャオロースおかわりしたい！」。2年生は配膳員さんに「こっちもこっちにもお肉が入っている」と喜びの言葉が。3年生からは「おいしくて食べ過ぎた」との声も。そして、なんと給食の残菜が普段の半分に減ったそうです。このメニューは夏休みの課題(任意)「献立コンクール」の栄養士賞受賞の田中優輝さんの献立でした。ちなみに昭島市内全中学校の献立でした。(その他の受賞者の献立は3月の給食となります)

《田中さんが献立にこめた思い》

「みんなが好きな味付けにして、野菜が苦手な人でも食べやすくしたい」という思いで考えたそうです。栄養士の鈴木さんは「調味料の量まで細かく考えられていたことが受賞の決め手になった」とおっしゃっていました。

